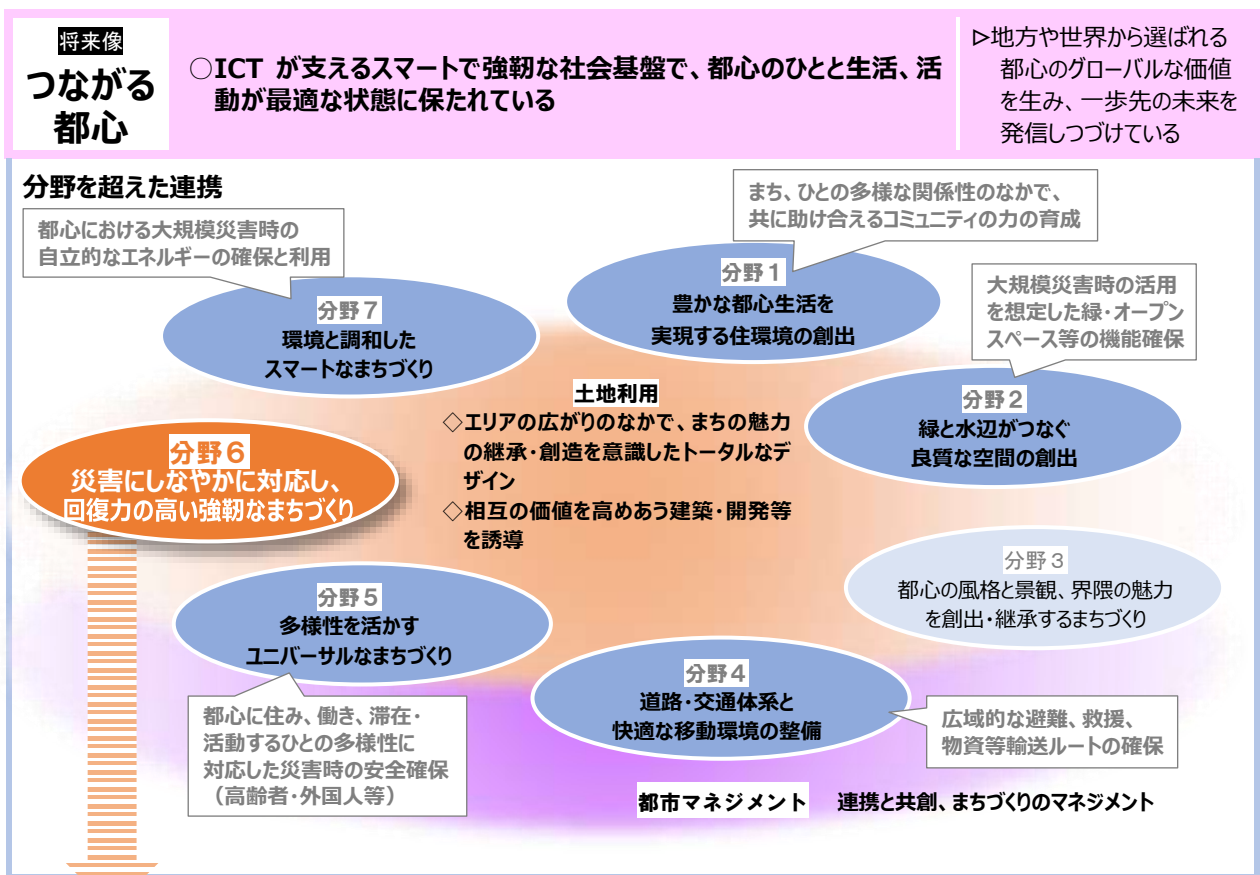


千代田区都市計画マスタープラン改定
分野別まちづくり等の素案検討①
【B.土地利用＋分野別検討資料】

〔分野6〕

災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

たたき台



方針1 : 大規模災害に備えて、耐震性に優れ、強靱で代替性のある多重化されたライフラインを構築していきます

方針2 : まちの特性を考慮しながら、高経年の建築物の更新や共同化、耐震性・耐火性の向上を進めていきます

方針3 : 地下街など都心の災害危険性の高い場所のリスク低減対策、まちなかの避難等を阻害する要因の解消を進めていきます

方針4 : 大規模災害発生直後の避難等の安全確保対策、都心生活・都心機能・国家中枢機能の継続・早期復旧のための対策を進めていきます

方針5 : 大規模災害からの創造的復興の道筋を事前に想定し、迅速・円滑に対応するための準備体制を整えていきます

● 分野 6 ●

災害にしなやかに対応し、回復力の高い 強靱なまちづくり

未来へのまなざし

災害対応力（防災力・対応力・継続性）

千代田区は建物の不燃化が進み、災害危険度は比較的低いとされていますが、細街路で区分された街区に小規模で老朽化した建物が多いエリアがあることや、高度経済成長期に建設が進んだ都市基盤施設や公共施設が多いこと、河川氾濫時に浸水の危険性が指摘されるエリアがあることなどから、地震や水害による被災リスクを低減する対策を講じていきます。

イメージ写真

道路・橋梁、公共施設等の耐震化・長寿命化、更新
建物の耐震化、共同化・更新
都市の骨格的な道路ネットワークの形成

地域では、町会など従来からの防災組織や、防災隣組や帰宅困難者対策地域協力会（町会・事業所）、大学との協定等とともに、都心に滞在する多様なひとのつながりを強めて、災害時にもそれぞれの安全確保と共助の力が発揮できるようなコミュニティの形成を進めていきます。

イメージ写真

千代田のまちで柔軟で多様な働き方、活動を展開する
ひととまちをつなぐコミュニティとその防災対応力
80万人を超える昼間人口と
都心に集積する来訪者・滞在者の安全確保

さらに、大規模地震や水害発生時に、都心千代田の魅力・価値の根幹となる機能・活動の継続性を確保するための拠点形成を進め、エリアとしての防災性を高めるとともに、災害発生直後の安全対策（救援・避難・帰宅困難者対策等）、退避から生活環境確保、復旧・復興などのステップが遅滞なく確実に進むよう、事前の備えに万全を期していきます。

**まちづくり
の目標**

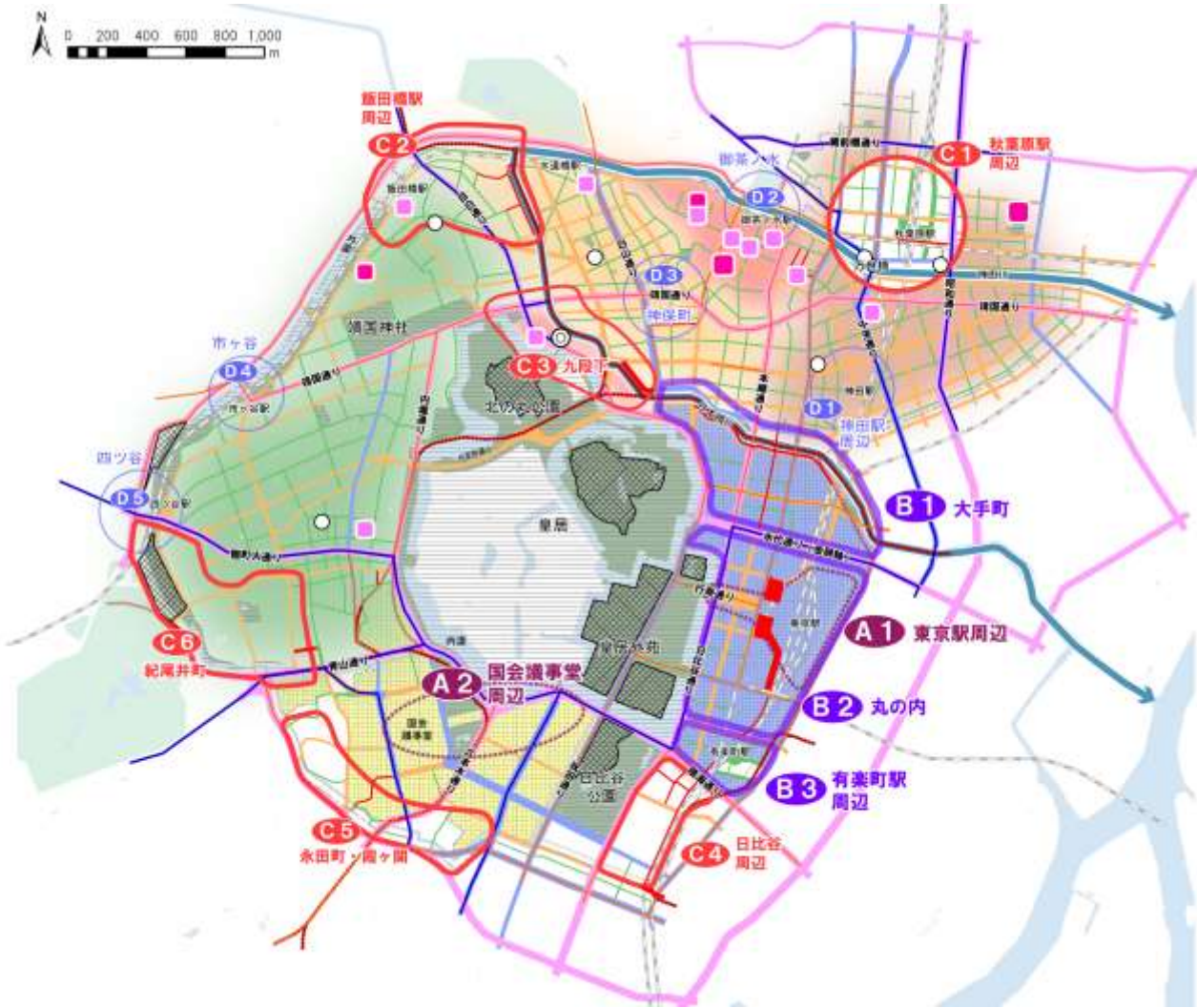
**大規模災害の発生を前提に、
都心に滞在する多くの人の生命、生活を守り、
首都機能・都心機能、都心生活の継続性を高め、備えていく**

- 減災と災害時の生命を守る安全確保、都心生活の継続性確保
- 大規模災害時の都心の都市基盤、中枢ネットワークの継続性の確保と活用
- 高度な都心機能の自立性・継続性の確保
- 復興事前準備の確立

方針 1	大規模災害に備えて、耐震性に優れ、 強靱で代替性のある多重化されたライフラインを構築していきます
現行方針から継承する方針	強化するポイント（中間のまとめ）
—	◇ライフラインの強靱性、バックアップ機能の確保
方針 2	まちの特性を考慮しながら、高経年の建築物の更新や共同化、 耐震性・耐火性の向上を進めていきます
現行方針から継承する方針	強化するポイント（中間のまとめ）
方針 1： 震災時に壊れにくい、燃え広がらないまち、水害などに強いまちをつくる	◇建物倒壊リスクの高い高経年建築物（マンション等）の機能更新や耐震化
方針 3	地下街など都心の災害危険性の高い場所のリスク低減対策、 まちなかの避難等を阻害する要因の解消を進めていきます
現行方針から継承する方針	強化するポイント（中間のまとめ）
方針 1： 震災時に壊れにくい、燃え広がらないまち、水害などに強いまちをつくる	◇地下ネットワーク等における浸水対策や避難計画の作成
方針 2： 災害時の避難、防災活動が円滑に行えるまちをつくる	
方針 4	大規模災害発生直後の避難等の安全確保対策、 都心生活・都心機能・国家中枢機能の継続・早期復旧 のための対策を進めていきます
現行方針から継承する方針	強化するポイント（中間のまとめ）
方針 2： 災害時の避難、防災活動が円滑に行えるまちをつくる	◇高層・超高層の集合住宅等の増加を想定した災害対策 ◇都心で生活・滞在するひとの多様性を考慮した災害発生時の的確な安全確保対策と共助体制の強化 （住民、子ども・高齢者・障害者等、外国人、来訪者、滞在者・宿泊者等） ◇エリアの中核的建築物における機能の継続性・早期復旧の確保 ◇災害時にも都市活動の維持・継続が可能な市街地の形成
方針 5	大規模災害からの創造的復興の道筋を事前に想定し、 迅速・円滑に対応するための準備体制を整えていきます
現行方針から継承する方針	強化するポイント（中間のまとめ）
方針 3： 災害時の代替となる施設・手段の確保とともに、速やかで適切な復旧・復興を進める	◇発災時からのステップに対応した適切な活動のための体制と訓練 ◇復興事前準備として、大規模災害のきめ細かな被害想定に基づく地域まちづくりの構想や計画の検討

▶方針図

災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり



	国際ビジネス・文化交流拠点
	高度機能創造・連携拠点
	交通結節拠点

	主要幹線道路
	幹線道路
	地区内主要道路
	主要区画道路
	区画道路

	都市計画公園・緑地
	河川・濠
	一団地の官公庁施設

	特定緊急輸送道路（高速道路）
	特定緊急輸送道路（高速道路以外）
	一般緊急輸送道路
	河川（日本橋川～神田川）

	区役所
	出張所
	災害拠点病院
	災害拠点連携病院
	災害医療支援病院

	災害時退避場所
	都市再生安全確保計画区域

1	まち、ひとの多様な関係性のなかで、共に助け合えるコミュニティの力の育成	⇔	分野1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出
	現行方針の継承のポイント —		強化するポイント（中間のまとめ） —
2	大規模災害時の活用を想定した緑・オープンスペース等の機能確保	⇔	分野2 緑と水辺がつなぐ良質な空間の創出
	現行方針の継承のポイント ○延焼防止にも資する公園・広場などのオープンスペースの確保		強化するポイント（中間のまとめ） ◇災害時の活用を前提とした緑地、オープンスペース等の整備と維持管理
3	広域的な避難、救援、物資等輸送ルートの確保	⇔	分野4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備
	現行方針の継承のポイント —		強化するポイント（中間のまとめ） ◇移動・避難・救援・輸送ルートの確立と機能点検・更新 ◇防災船着き場など災害時に機能する水上交通の検討
4	都心に住み、働き、滞在・活動するひとの多様性に対応した災害時の安全確保（高齢者・外国人等）	⇔	分野6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり
	現行方針の継承のポイント —		強化するポイント（中間のまとめ） —
5	都心における大規模災害時の自立的なエネルギーの確保と利用	⇔	分野7 環境と調和したスマートなまちづくり
	現行方針の継承のポイント —		強化するポイント（中間のまとめ） ◇災害時の対応を想定し、地域の特性に応じた自立分散型エネルギーデザインの構築